



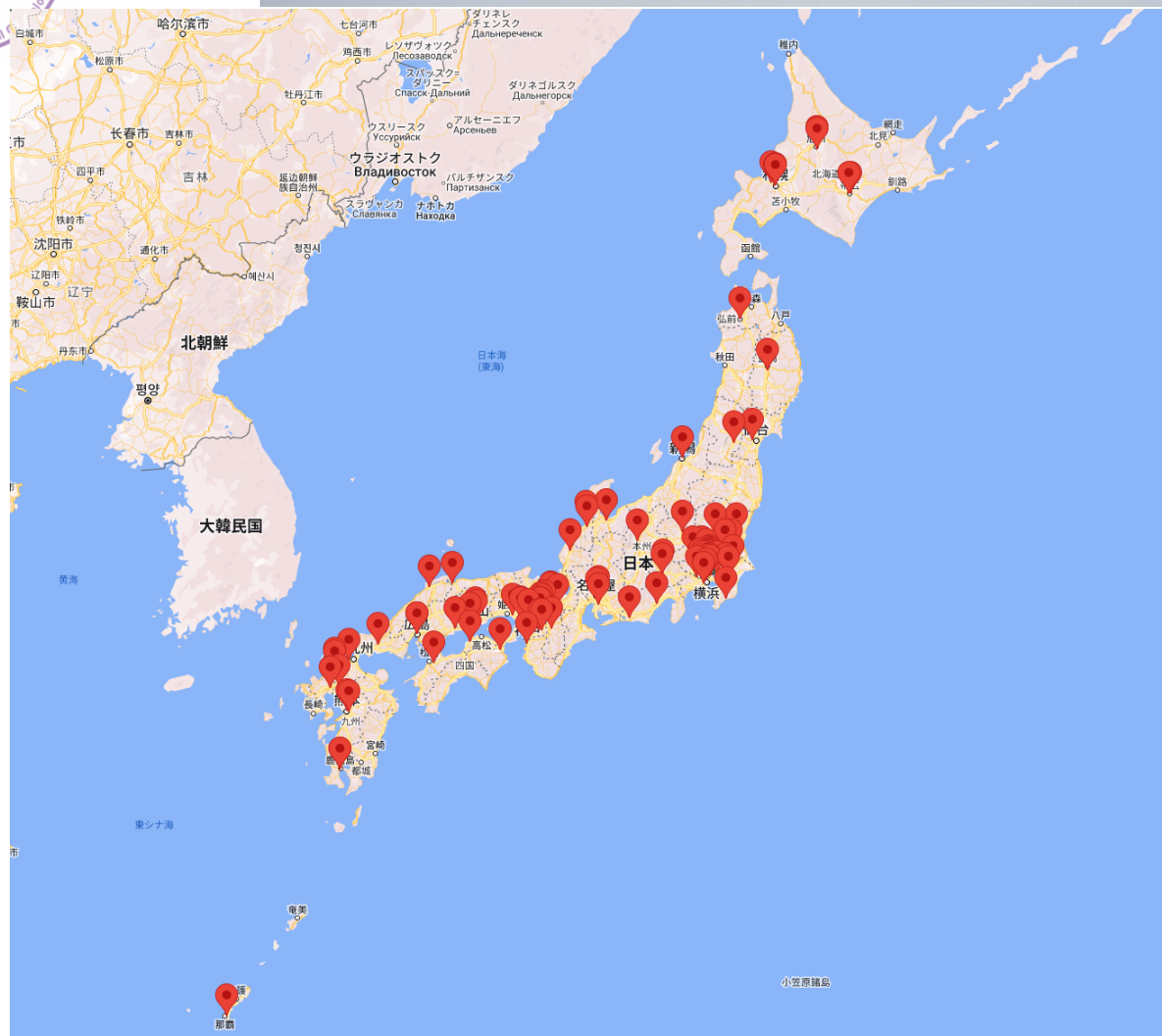
レベルII 胎児心臓超音波検査 オンライン多施設間全国登録について

**日本胎児心臓病学会 総務委員会
瀧間浄宏、武井黄大、加地剛、川崎有希、
石井徹子、新谷光央、高橋美穂**



胎児心臓超音波検査専門施設

2023年 99施設→2024年 106施設



北海道	9	施設
東北	5	施設
関東	36	施設
甲信北陸	9	施設
中部	6	施設
近畿	20	施設
中国四国	10	施設
九州沖縄	11	施設



目的

多施設間 レベルII 胎児心臓超音波検査登録の解析



方法

**2004年10月1日より2023年12月31日までの
オンライン登録データ
レベル(II)胎児心臓超音波検査 125556件**

胎児心臓超音波検査専門施設 106施設

登録の経年変化、各県の登録数およびNDBオープンデータとの比較、疾患分類、疾患別登録割合、22週未満の検査について解析。

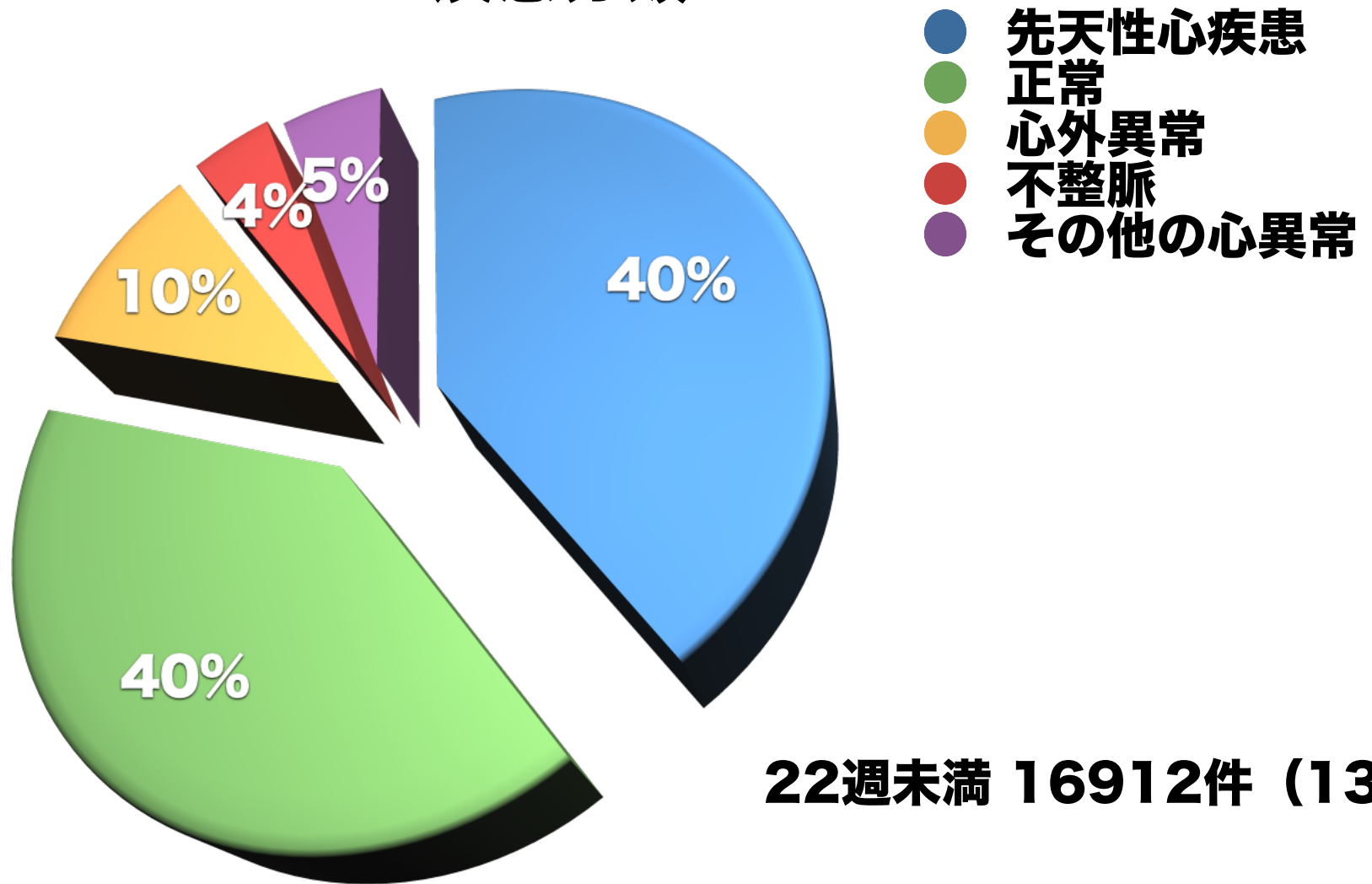


Annual registrations





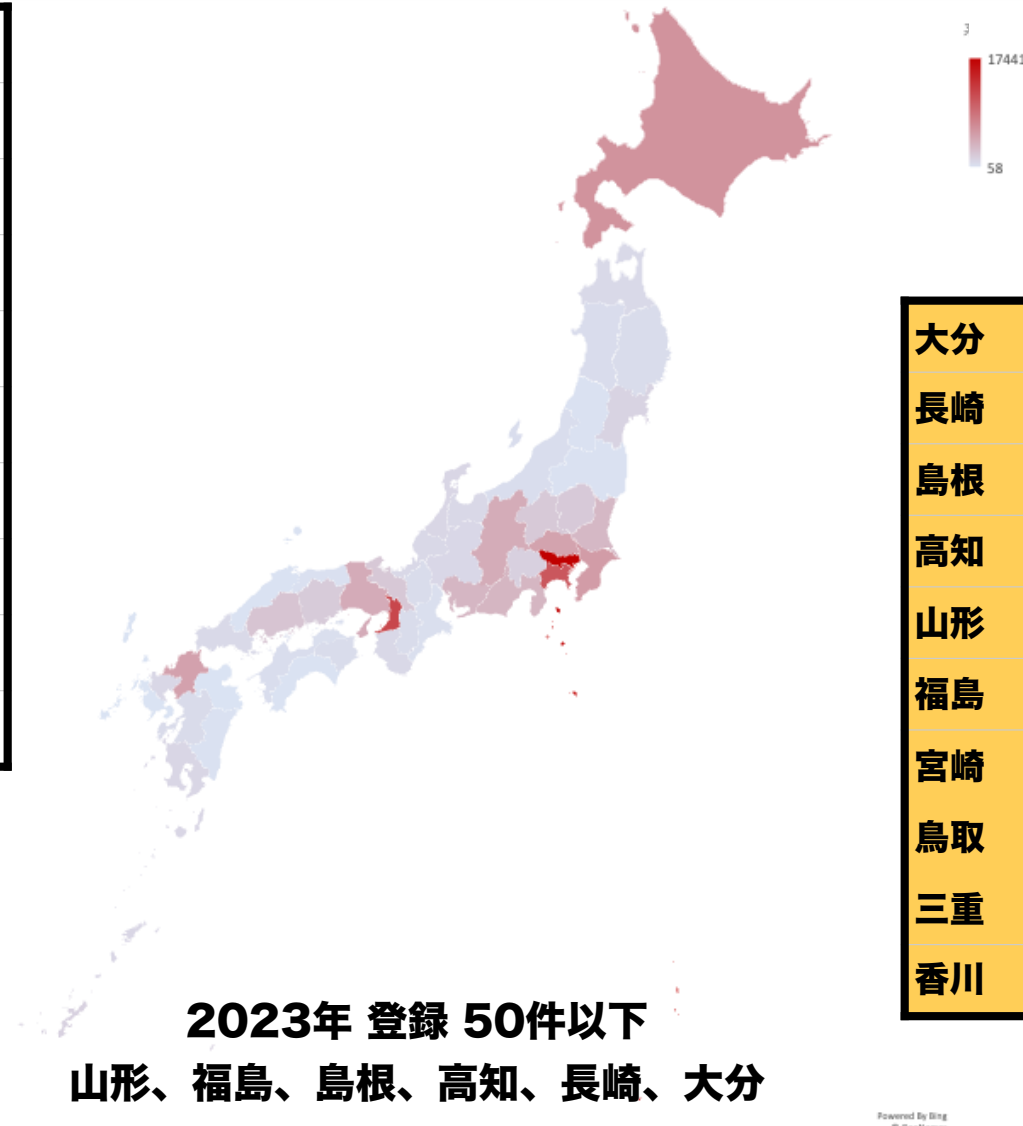
疾患分類





県別登録件数

東京	19877
大阪	13053
神奈川	12883
北海道	6979
千葉	6064
福岡	5794
埼玉	5617
兵庫	4849
長野	4573
茨城	4072

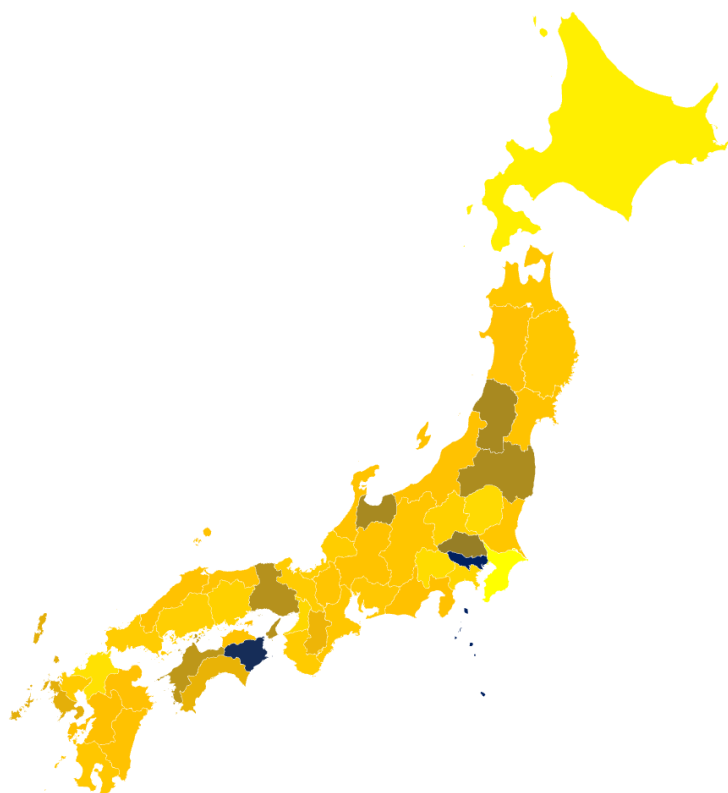


大分	77
長崎	79
島根	181
高知	185
山形	216
福島	259
宮崎	286
鳥取	386
三重	433
香川	468



2014-2021 県別登録件数とNDBオープンデータとの差

千葉県	2,747
北海道	2,101
福岡県	1,428
山梨県	1,203
栃木県	1,144
神奈川県	1,007
大阪府	969
岡山県	726
群馬県	721
広島県	663



東京都	-868
徳島県	-797
埼玉県	-357
富山県	-300
山形県	-297
福島県	-283
兵庫県	-253
愛媛県	-224
長崎県	-92
高知県	-70

登録件数-NDBオープンデータ

総数の差：83613-68316=15297

厚労省 NDBオープンデータ 第1回～第8回より

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000177182.html>



先天性心疾患

CHD	48664	%
VSD	8820	18.1
DORV	4791	9.8
TOF	4471	9.2
AVSD	3763	7.8
HLHS	3492	7.2
SRV	2843	5.9
SLV	612	1.3
dTGA	2615	5.4
Simple CoA	1667	3.4
IAA	801	1.7
TAPVC	593	1.2

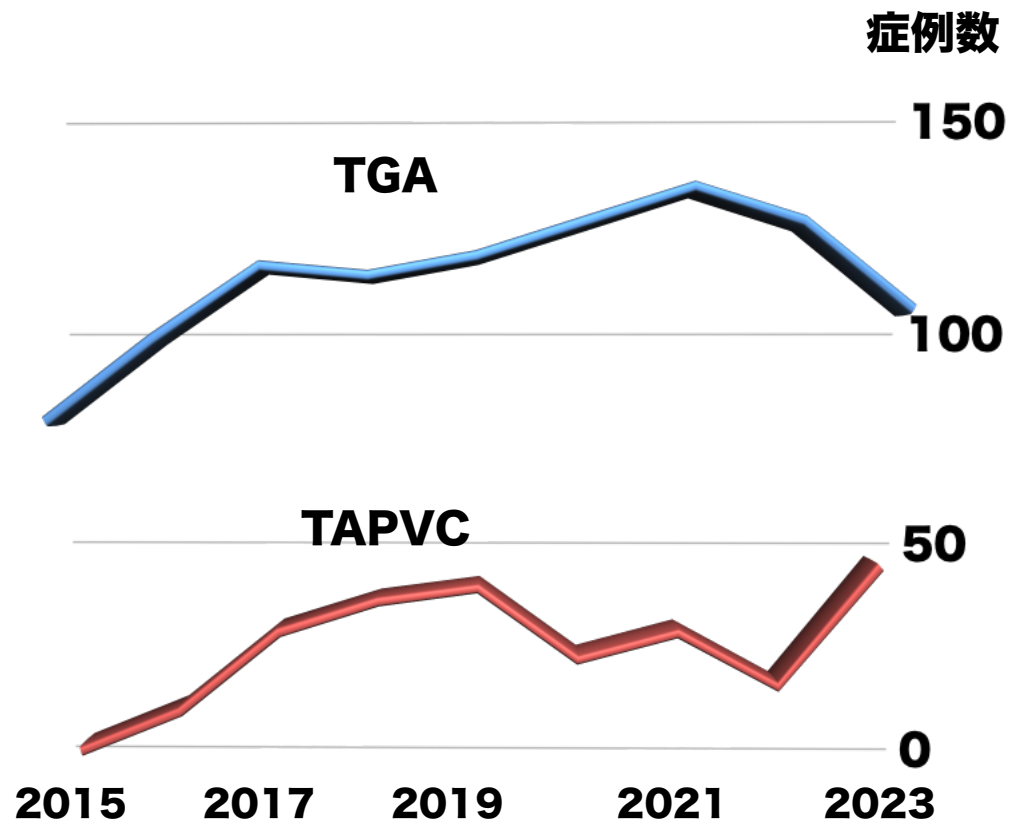


不整脈

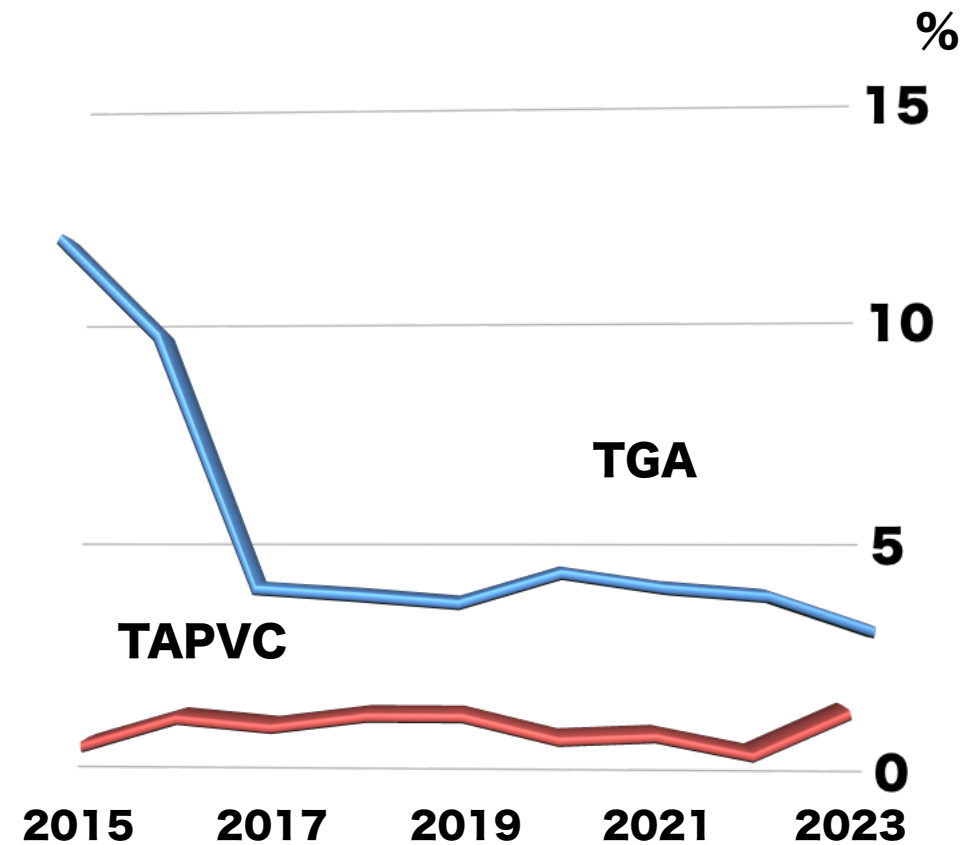
Arrhythmia	5601	%
PAC	2462	44.0
CAVB	656	14.3
PSVT	484	10.6
PVC	475	10.4
AF, Af	368	8.0
VT	69	1.5



症例数(初回の検査数)



CHDの胎児診断例に対する割合





まとめ

- ✓近年の登録は約10000-14000件と急速に増加、疾患分類では先天性心疾患が40%、正常が40%、不整脈が5%、心外異常10%と経年的変化はない。
- ✓登録数は、大都市圏の東京、大阪、神奈川、北海道が上位で5000件以上、登録の少ない県は、九州、東北、中国、四国の一部の県であった。
- ✓2014-2021年のNDBオープンデータとの比較では、総数の差は登録数の+18%で、レベルII胎児心臓超音波検査とレセプトの不一致が認められた。
- ✓先天性心疾患では、四腔断面の異常を示すものが多く、dTGA、IAA、TAPVCなどの登録数が少なく、横ばいとなっている。



結語

レベルII胎児心臓超音波検査の登録は、認証医制度設立以降、年々増加し、毎年14000件以上の増加、120000件を超えた。しかし、実施検査数の地域差は依然として存在する。

今後も、レベルIIの質的、量的向上を図るため、胎児心臓病スクリーニングの裾野を広げて、胎児登録の維持、レセプトとの較差是正、地域差の是正のための努力を行っていく必要がある。